

○第36回かび毒・自然毒等専門調査会

日時：平成27年10月22日（木） 14：00～16：35

議事概要：

（1）専門委員の紹介

- ・事務局から専門委員を紹介した。

（2）専門調査会の運営等について

- ・事務局から説明した。

（3）座長の選出

- ・専門委員の互選により、宮崎専門委員が座長に選出された。
- ・宮崎座長から、座長代理に合田専門委員が指名された。

（4）フモニシンの食品健康影響評価について

- ・上垣専門参考人から「飼料作物におけるフモニシンの動態」について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。
- ・中川専門参考人から「マスキドマイコトキシンの概要と現状」について、事務局から「マスキドフモニシンまたはモディファイドフモニシン」について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。
- ・審議の結果、マイコトキシンを「遊離型マイコトキン」と「モディファイドマイコトキン」に分類すること、「モディファイドマイコトキン」については、汚染状況、毒性、代謝・加工調理による増減等の知見が限られていることから、引き続き知見の収集・整理を行うこととし、フモニシンの食品健康影響評価においては、「遊離型フモニシン」について取りまとめることとされた。
- ・「フモニシンの毒性発現の機序について」及び「食品等のフモニシン汚染実態調査（中間報告）」については、次回、事務局から報告することとした。

（2）その他

- ・毒キノコによる食中毒について注意喚起を行っていること、平成28年度食品健康影響評価技術研究課題の公募を開始し、「マスキドマイコトキシンの代謝と毒性に関する研究」についても公募している旨、事務局から報告した。

*フモニシン：主に *Fusarium* 属が産生するかび毒。

世界各地のトウモロコシから高濃度、高頻度に検出される。

ウマで大脳白質脳症、ブタで肺水腫といった臨床症状を示し、ヒトでは神経管閉鎖障害との関係が示唆されている。